

# News Letter

2023  
Summer issue

令和5年8月28日発行

*Japan Society for the Sociology of Sport and Physical Education*

一般社団法人  
**日本体育・スポーツ・健康学会 第73回大会**  
The 73rd Conference of the Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences

知徳体を育む「体育とスポーツ」の未来

2023年8月30日(水)~9月1日(金)

同志社大学 今出川校地

## 日本体育社会学会

事務局：〒630-8506

奈良県奈良市北魚屋西町

奈良女子大学生活環境学部 N120 研究室

石坂 友司 研究室内

E-mail: jimukyoku@jssspe.org

## < 目 次 >

会長あいさつ	1
会長、理事・役員、各種委員会委員	3
日本体育社会学会第1回大会報告	5
学生研究奨励賞受賞者の声	7
学部学生ポスター発表賞受賞者の声	8
日本体育・スポーツ・健康学会第73回 大会スケジュール	9
「年報 体育社会学」編集委員会より	11
事務局より	11
あとがき	16

## 日本体育社会学会を共に創る



日本体育社会学会 会長  
(一社) 日本体育・スポーツ・健康学会  
体育社会学専門領域 代表

松尾 哲矢 (立教大学)

2023年4月1日、日本体育社会学会が創設されました。本学会は、(一社) 日本体育・スポーツ・健康学会体育社会学専門領域と連結した独立学会として創設されたものです。これまで本学会の創設に向けて、お導きくださいました代表の菊幸一先生、山口泰雄先生、創設準備に中心的に取り組んでくださった学会員の皆様、またお支えくださった関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

本学会の歴史的経緯をたどりますと、1950(昭和25)年日本体育学会が創設され、1962(昭和37)年に有志58名で体育社会学専門分科会(のちに体育社会学専門領域)が発足しました。2021年4月から日本体育・スポーツ・健康学会となり、体育社会学専門領域の会員数は、346名(2023年5月8日)となっています。歴代の分科会(専門領域)会長・代表は、浅井浅一氏、竹之下休蔵氏、菅原禮氏、糸野豊氏、佐伯年詩雄氏、池田勝氏、江刺正吾氏、森川貞夫氏、川西正志氏、山口泰雄氏、菊幸一氏、各氏が務めてこられました。これまでの体育社会学専門領域の取り組みを生かし、さらに発展させるべく日本体育社会学会が創設されたこと、この歴史的な取り組みの上に本学会があることを踏まえて、新しい学会創りに真剣に取り組む必要があります。

本学会は、独立した学会ですが、(一社) 日本体育・スポーツ・健康学会体育社会学専門領域と連結した学会ですので、展開の仕方によっては、どちらかに力点が偏ることもありえます。新しい学会と専門領域の双方の良さを最大限に生かし、体育社会学の学的進展と界としてのプレゼンスを高めていくためには、学会運営力、研究促進に向けた創造力が求められます。

学会運営力に関しては、理事長：高峰修会員、事務局長：石坂友司会員、事務局次長：水上博司会員、石澤伸弘会員、会計担当：工藤康宏会員、広報担当：常行泰子会員を中心に、新しく理事になってくださった学会員の皆様と力を合わせて進めてまいります。それぞれに学会運営に長けた皆様ですが、学会員の皆様の協力なしにより実りあるものにするのは困難です。皆様で知恵を出し合いながら、新しい袋に実りを与えていただければと存じます。

新しい袋にどのような実りを入れていけるのか。研究促進に向けた創造力が求められます。6月に開催されます日本体育社会学会大会、8-9月に開催されます(一社) 日本体育・スポーツ・健康学会体育社会学専門領域での事業、さらには年間を通して実施される研究セミナー等について、それぞれ特徴づけながら、いかに生かしていけるのか、そして、全体として統一感のあるものに仕上げられるのか。簡単ではありませんが、やりようによっては、これまでにない新しい取り組み、会員の皆様の研究上の触媒機能が果たせる学会になり得るものと思います。

体育社会学の大きな魅力は、領域の独自性(学校体育、体育授業、運動会、学校運動部、社会体育(地域における体育)、生涯を通した運動と体育など)とともに、理論と実践が近いことであり、実践から課題を引き出し、理論化するなかで、実践を意味づけし、時には実践に生かせる視点を提示する。この理論と実践の往還運動にあるかと思えます。

この2年間で実施すべき取り組みは多岐にわたりますが、学会運営を軌道に乗せることはもとより、新事業として始まった「体育社会学テキスト」(テキスト出版編集委員会、委員長：松田恵示会員)の作成(2024年度発刊予定)、若手会員の増員と活躍の場の提供、シニア会員の学会での活動の場の提供、他学会との連携事業の展開な

ど、新しい取り組みを積極的に展開していけたらと考えています。

体育社会学専門領域での活動をさらに発展させ、日本体育社会学会という新しい界を生かして会員各位のさらなる研究の発信と交流の場とすること、もって体育社会学「界」のプレゼンスを高めることが新しい学会を創設した意義だと思います。

皆様で新しい学会、創ってまいりましょう。

## <会長、理事・役員、各種委員会委員>

任期 2023 年 6 月 25 日から 2025 年 6 月 22 日（予定・総会終結日まで）

### 1) 会長、理事・役員

会長（代表）：松尾哲矢

全国：伊藤克広、大沼義彦、北村尚浩、清水諭、高峰修、長ヶ原誠

北海道・東北：浅沼道成、甲斐 健人

関東・甲信越：秋吉遼子、高尾将幸

東京：笹生心太、中澤篤史、松田恵示、依田充代

東海・北陸：神野賢治、千葉直樹

近畿：稲葉慎太郎、高橋豪仁、彦次佳

中国・四国：岡安功、白石翔

九州・沖縄：藤井雅人、前田博子

（50 音順）

### 2) 各種委員会委員 ◎委員長、○副委員長

研究委員会：◎千葉直樹、○白石翔、秋吉遼子、浅沼道成、大沼義彦

編集委員会：◎藤井雅人、○前田博子、石坂友司（事務局長）、千葉直樹（研究委員長）、  
甲斐健人（学生研究奨励賞選考委員長）、稲葉慎太郎、神野賢治、高橋豪仁

広報委員会：◎伊藤克広、岡安功、笹生心太

学生研究奨励賞選考委員会：◎甲斐健人、○中澤篤史、高尾将幸、長ヶ原誠、彦次佳

専門領域賞選考委員会：（保留）

選考委員候補者推薦委員会：◎松尾哲矢（会長）、山口泰雄（前代表）、石坂友司（事務局長）、監事（2名）、  
清水諭、高峰修

学会大会委員会：◎依田充代、石澤伸弘（事務局）

テキスト出版：◎松田恵示、清水諭、北村尚浩、松尾哲矢、高峰修、石坂友司（事務局）

監事：有山篤利、宮本幸子

理事長：高峰 修

事務局：石坂友司（局長）、水上博司（次長）、石澤伸弘（次長）、工藤康宏（会計）、常行泰子（広報）

### 3) 学会本部 常設委員会委員 ◎は委員長

運営委員会：工藤保子

庶務委員会：◎工藤保子、石坂友司

学会賞・浅田学術奨励賞選考委員会：齋藤健司（◎浅田賞、○学会賞）

選挙管理委員会：◎工藤保子

国際誌委員会：◎長ヶ原誠

学会大会委員会：◎依田充代

広報委員会：依田充代

政策検討・諮問委員会：◎水上博司

ダイバーシティ委員会：◎高峰修

### 4) 学会本部委員

学会賞選考委員会：吉田毅

「体育学研究」編集委員会：高橋義雄、谷口勇一、北村尚浩、中澤篤史

「JSHS」編集委員会：伊藤央二、山口志郎

5) 応用（領域横断）研究部会員（任期3年）

スポーツ文化研究部会：植田俊

学校保健体育研究部会：松田恵示

競技スポーツ研究部会：溝口紀子

生涯スポーツ研究部会：秋吉遼子

健康福祉研究部会：高尾将幸

6) 政策検討・諮問委員会委員

下竹亮志、大隈節子

7) 若手研究者委員会委員

片桐夏美

## <日本体育社会学会第1回大会報告>

### 日本体育社会学会第1回大会 開催報告

村本 宗太郎 (立教大学)

2023年6月24日(土)、25日(日)に、日本体育社会学会第1回大会が立教大学池袋キャンパスにおいて対面形式で開催された。本報告では、大会における個々のプログラム内容に簡単に触れながら開催報告とする。本学会大会は、日本体育・スポーツ・健康学会体育社会学専門領域と連結した独立学会として日本体育社会学会が創設されてから初めてとなる学会大会であり、研究企画及び一般発表においても対面での開催となった。

実行委員会・研究委員会企画のテーマは、「体育社会学を社会学するー社会学の現状から Society5.0 時代の体育社会学を語るー」であった。企画では、ダイアログ・フォーラムという形式がとられ、キーノートレクチャー後に、グループディスカッションの時間が設けられた。キーノートレクチャーの演者は井上俊氏(大阪大学名誉教授)であり、企画のファシリテーターは、石坂友司氏(奈良女子大学)、工藤保子氏(大東文化大学)、稲葉佳奈子氏(成蹊大学)で、コーディネーターは原祐一氏(岡山大学)であった。

キーノートレクチャーのテーマは、「社会学の現在と『公共社会学』」であった。井上氏からは、「社会学の戦前と戦後」「二大パラダイムの時代」「多様化の時代」「Public Sociology の提唱」「分業体制」としての四領域の内容から、これまでの社会学の発展過程と公共社会学に関する発表がされた。公共社会学に関する内容では井上氏が、ブラウオイ(M.Burawoy)による社会学の見取り図を論じたうえで、今後体育社会学がどのような意味をもつのか、という内容について議論することの重要性について指摘した。井上氏は体育社会学という領域について、実践性があることや、実際に学校体育を変えたことにみられるポリシーを変えていく影響力があることに触れたうえで、今後は日本社会学会へインパクトを与えるような研究を会員に行なってほしいとするメッセージを残してレクチャーを閉じた。

グループダイアログでは、一般会員と学生会員がくじ引きによって組まれた3~4名程度のグループで議論を行なう形式で、「体育社会学は、『何を問わなければならないのか?』」を全体で共通したディスカッションテーマとし行なわれた。ディスカッション後には意見共有の時間が設けられた。各グループからは、体育という言葉を狭く捉えなくてよいのではないかと、地域固有の事情を踏まえて研究結果を世の中に還元していく必要があるのではないかと、研究者だけでなく、学校教員やクラブ指導者も集まり地域固有の悩みを共有し解決策を見出す場が良いのではないかと、スポーツ社会学会とは異なる、体育社会学会の意義を確認する必要があるのではないかと、とする意見が出され、最後にファシリテーターからコメントがされた。

石坂氏からは、キーノートレクチャーから社会学の歴史をみたときにスポーツ・余暇・文化というテーマの広がりや印象づけられたこと、今後について常に体育社会学の研究者が自らの立ち位置を意識する必要があること、体育とスポーツの領域の重なりが出た際に、自分たちの強みとは何か、誰のために研究をしているのかということや、これを常に問うことがパブリックソシオロジーから考える一つの意味であるといえるのではないかと、とするコメントがされた。工藤氏からは、今回のような体育社会学の領域についてディスカッションをし、考える場を設けることが今後も重要となるとコメントがされた。稲葉氏からは、体育社会学の独自性について今までは、これまで何をしてきたのかという部分に焦点がおかれていたが、今後は企画内で行なったこれからどうするのか、どうしていきたいのかというテーマについて今後も会員に積極的に考えてほしいとするコメントがされた。

研究委員会企画シンポジウムのテーマは、「学校運動部活動のこれまでとこれからー文化・社会的意義から見えてくるものー」であった。演者は、有山篤利氏(追手門学院大学)、下竹亮志氏(筑波大学)、山本宏樹氏(大東文化大学)の3名で、司会は石坂友司氏(奈良女子大学)であった。

有山氏からは「運動部活動改革の二つのミッション」というタイトルで発表がなされた。内容は、様々な矛盾を含んだ部活動の地域移行について要点を整理し、日本のスポーツ活動の理想的なあり方を論じるものであった。部活動の地域移行について、学校が担っている競技スポーツを学校外で行なうこと、余暇のスポーツを学校と学校外が連携して地域に根づかせることの2点が改革におけるミッションとして提起された。日本のスポーツ活動の模式図として、教育・競技・余暇の領域を示し、現在は3領域の中心には運動部活動が位置しているが、今後は総合型スポーツクラブが中心に位置づいた形が理想的なあり方として示された。

下竹氏からは「運動部活動は何をしてきたのか」というタイトルで発表がなされた。内容は、運動部活動に関

し、改革の現在地及び「妖しい魅力」について論じたうえで、運動部活動はこれまで「何を」してきたのか、今後「何を」地域移行するのかという視点から論じられた。下竹氏は運動部活動をそのまま地域に移行することは、これまでの問題が他に移る、もしくは学校で担ってきた運動部活動の機能がなくなることで別の問題が出てくる可能性について指摘し、運動部活動が担ってきた機能の「何を」地域移行できるのかという視点が必要であることを指摘した。特に、スポーツという教育的手段に固有の側面を希求する方向（手段論）が運動部活動で目的化・肥大化することは避ける必要性が論じられた。

山本氏からは「部活動のトリレンマ『学校か地域か』の前提を問う—」というタイトルで発表がなされた。内容は、部活動は「良質・平等・低価格」の3目標を同時に満たすことは困難であるトリレンマを論じ、部活動改革を通じてトリレンマ構造を組み換えることが重要であると指摘された。今後、「良質で平等な部活動」の提供は学校も地域も「低質」「不平等」の危険をはらむこと、部活資本（専門家、コネクション、施設、評判等）の最大化戦略も地域により事情が異なり、公費なしでの「良質・平等」は困難であること、創意工夫によって「良質で平等かつ低費用な部活動」を目指すことはあっても良いが、当事者の「やりがい搾取」や「自発的行為」扱い等は拒絶するべきと指摘された。

演者からの発表の後、参加者からの質問が受け付けられた。参加者からは、子どもたちが自由に考え、考える力を身につけるということについてスポーツを通してどのように考えるべきか、部活動が学校という制度を離れることで制度的な指導の期待を共有できる基盤がなくなってしまい、指導のあり方は変わることが想定されるが、学校における部活動指導と地域における部活動指導の差異についてどのように考えるべきか、部活動の地域化に伴い企業がスポーツ事業に関わる際にはどのような点に留意するべきであるか、部活動を行なう目的が不明確なまま地域移行が行なわれようとしているがどのように考えるか、等の意見が出された。

一般発表では、「一般口頭発表」17演題、「学生研究奨励賞エントリー発表」7演題の発表が行なわれた。発表後には発表者と参加者間で活発な議論が行なわれた。

今大会では、学部学生の研究活動への興味・関心促進のために、「学部生ポスター発表」が行なわれた。内容は、学部4年生の学生がこれまでに取り組んだ研究や、卒業論文の計画についてポスター発表を行なうもので、個人・グループをあわせて5演題の発表が行なわれた。発表では、発表者がポスターの前で口頭発表を行ない、参加者が対面で質疑応答を行なう形式がとられた。発表者の中にはポスターは会場に貼り出し、発表及び質疑応答はリアルタイムのオンライン形式で実施するハイブリッド方式での発表も行なわれた。

今学会大会開催にあたり、大会実行委員長の松尾哲矢氏（立教大学）は、体育社会学について「体育社会学の大きな魅力は、領域の独自性（学校体育、体育授業、運動会、学校運動部、社会体育（地域における体育）、生涯を通じた運動と体育など）とともに、理論と実践が近いことであり、実践から課題を引き出し、理論化するなかで、実践を意味づけし、時には実践に生かせる視点を提示する。この理論と実践の往還運動にあろうかと思えます。」と論じている。今大会は体育社会学学会としての第1回ということもあり、会員が体育社会学について改めて問い直し、問い直すだけでなく今後を見据え、考える機会が多くもたれたように感じられた。今後続く学会大会においても、学会大会の場が、会員間の研究発信と交流の場となり、過去・現在・未来の体育社会学を常に問うことのできる場としてつながっていくことを祈念して本学会大会の開催報告を閉じたい。

以上

## <学生研究奨励賞受賞者の声>

「学生研究奨励賞」を受賞して

八木 一弥（立教大学大学院 スポーツウエルネス学研究科 博士課程前期課程2年）

発表演題

「明治期における野球の文化形成に関する一考察：  
野球害毒論争をめぐる論調の変化に着目して」

この度、日本体育社会学会第1回大会において「学生研究奨励賞」に選出いただき、大変光栄に思っております。日頃よりご指導を賜っております松尾哲矢先生をはじめ、様々な視点からご助言をしてくださる立教大学の先生方、さらには松尾研究室の大学院生の皆様、その他多くの方々にお力添えを頂きながら、本研究を進めることができいております。改めまして、この場をお借りして御礼申し上げます。

本研究は、明治期に新聞社を中心として起こった野球害毒論争が、日本における野球の文化変容に関わっているという視点に立ち、新聞社やその論者など、そこに関わるアクター同士の関係ややりとりを分析しました。また、そうしたやりとりが世間へ影響をあたえ、さらには世間から論争が影響を受けるという過程で論調が変化していくことに着目し、その過程における文化変容の一側面を考察するという試みでした。

分析の結果、野球害毒論争における「あおり」「しずめ」というフェーズの存在が看取されました。その過程においてアクターの相互のやり取りが次第に世間に反響を及ぼし、さらにはその反響が論争における各紙の論調に影響を与える形で論争が動いていくことで、その結果として、既存の野球文化が土着文化と接合していくという文化変容の一側面が看取されました。

今回は初めての学会発表ということでしたが、これまでこの分野を深く研究してこられた多くの先生方や関係者の皆様に聞いていただける大変貴重な機会であるということで、ワクワクしながら臨みました。発表後の質疑の時間では、多くのご指摘やアドバイスをいただくことができ、とても緊張感があり幸せな時間でした。

今回の学生研究奨励の受賞は、今後の研究の発展への期待を込めて選んでいただいたものであると受け止めております。まずは、本学会にて発表させていただいた研究を、皆様にいただいたコメントやご指摘を真摯に受け止め、より意義のある研究へと発展させられるようしっかり頑張ります。今回の受賞を励みに、より一層研究活動に精進して参りますので、引き続きご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



(八木会員と松尾会長：八木会員提供)

## <学部学生ポスター発表賞受賞者の声>

学部生ポスター発表賞の受賞に際して

藤原 宏太、滝花 晋吾、信田 愛美（北海道教育大学 札幌校 教育学部3年）

### 発表演題

「新たな部活動の在り方についての実証研究  
—札幌市立 H 中学校の事例に着目して—」

この度は学部生ポスター発表の最優秀賞をいただきありがとうございました。

正直、私たちの中では「もっとこのように言葉で伝えることができれば」、「ポスターをこのように見やすくしたら」、といった改善点もありましたので、受賞できたことにとっても驚いています。しかし、いただいたコメントの中で、自分たちが意識してやったことを褒めてもらったこと、成果が出たこともあり、やってきたことに対して自信が持てる結果となりました。

発表では、5分というスピーチ時間の中で伝えたいことが沢山あったので、ポスターはできるだけイラストを多くして見ている人が印象に残るよう努めてきました。実際に文字は少ないながらも分かりやすいとの声をいただいたので、努力した甲斐があったなど実感しました。また、原稿を読まずにほぼ5分ぴったりで発表を終わらせることが出来たこともとても良かったです。

今回私たちは、社会の中で課題となっている部活動の在り方について研究を進めてきました。その中でH中学校のスポーツレクリエーション部の活動は従来の部活動の在り方とは違い、この課題を解決するための一つの手段として挙げられると考えます。今後は、これまで行ってきたH中学校のスポーツレクリエーション部の活動、研究結果を踏まえ、他校にもその活動を広げる取り組みや機会作りを市教委と連携して行っていこうと考えています。それらの取り組みの中で、色々な工夫を施したり、新たな発見をすることから多くの学びを得て、自らの成長に繋げていきたいです。



(学部生のポスター発表賞受賞者と松尾会長：石澤会員提供)

<日本体育・スポーツ・健康学会第73回大会スケジュール>

1. 大会日程：2023年8月30日（水）～9月1日（金）
2. 開催会場：同志社大学 今出川キャンパス
3. 体育社会学専門領域プログラム  
（9月1日（金）3日目）会場は良心館（RY304 または RY303、理事会のみ RY404）  
9:00～10:00 理事会（RY404）  
10:00～11:17 口頭発表①（RY304・3演題）  
11:30～12:20 総会（RY304）  
13:00～14:00 キーノートレクチャー（RY304）  
14:10～15:53 口頭発表②（RY304・2演題）・④（RY304・2演題）  
14:10～15:01 口頭発表③（RY303・2演題）

4. キーノートレクチャー

日 時：9月1日（金）13:00～14:00

会 場：RY304

テーマ：武道家からみた学校体育と体育社会学の可能性

司 会：千葉 直樹（中京大学）

演 者：内田 樹（凱風館）

5. 体育社会学専門領域 発表プログラム

口頭発表① 9月1日（金）10:00～11:17（会場 RY304）

座長：高橋 豪仁（奈良教育大学）

10:00～10:25

森田 達貴（早稲田大学大学院スポーツ科学研究科）

Twitter にみられる高校野球指導者の語られ方

10:26～10:51

須藤 巖彬（早稲田大学大学院スポーツ科学研究科）

応援活動に従事する「補欠」に関する研究

—高校野球部でのフィールドワークをもとに—

10:52～11:17

中澤 篤史（早稲田大学）

ユース年代における全国競技大会の現代的展開

口頭発表② 9月1日（金）14:10～15:01（会場 RY304）

座長：中澤 篤史（早稲田大学）

14:10～14:35

高峰 修（明治大学）

性的暴行事例から考える部活動の地域移行問題

14:36～15:01

河野 洋（福山平成大学）

インターネット上の「正義感に基づくコメント」の検証

—FIFA ワールドカップカタール2022 を事例として—

口頭発表③ 9月1日（金）14:10～15:01（会場 RY303）

座長：笹生 心太（東京女子体育大学）

14:10～14:35

星野 映（早稲田大学）

中学生年代における柔道人口の減少について

—日本中学校体育連盟の加盟数に着目して—

14:36 ~ 15:01

高平 健司 (無所属)

三宅雪嶺の東洋的な身体感に基づく宇宙有機体説を構成理論とする嘉納柔道思想「精力善用・自他共栄」の形成過程から、武道としての柔道とは自然体の姿勢によるつくりとかけの柔道であることを論証する  
—三宅の宇宙有機体説を東洋的なエスノサイエンス身体に基づく「力」とそれに伴う「意志」という視点から、嘉納柔道思想「精力善用・自他共栄」をエスノサイエンス身体及びサイエンス身体という視点から分析する—

口頭発表④ 9月1日 (金) 15:02~15:53 (会場 RY304)

座長: 植田 俊 (東海大学)

15:02~15:27

清水 泰生 (同志社大学)

日本の都市型マラソンのチャリティーランナー制度についての考察  
—東京マラソンと大阪マラソンを中心に—

15:28~15:53

束原 文郎 (京都先端科学大学)

学生アスリートの競技への取り組み方は人気企業からの内定獲得に影響するか?

## 6. 発表の形式について

- ・今大会における本領域の発表数は、口頭発表9演題 (2演題取り消し) です。
- ・口頭発表は1演題あたり25分間 (発表15分間、質疑応答10分間) です。
- ・詳細につきましては第73回大会プログラムをご参照ください。

### <「年報 体育社会学」編集委員会より>

「年報 体育社会学」編集委員会では、現在第5号（2024年3月末刊行）の投稿論文の原稿を受け付けております。投稿された論文が2024（令和6）年1月末までに論文審査を終えて採択されれば第5号への掲載となりますが、1月末を過ぎても採択後には翌年の機関誌の刊行（第6号）を待たずに J-stage へ早期公開し、可能な限り投稿者の研究成果を国内外の研究者に広く共有してもらえよう編集体制を整えております。投稿先を検討中という会員の皆様には、是非とも「年報 体育社会学」へのご投稿を検討ください。なお、投稿には締め切りはございません。年間を通じて投稿を受け付けておりますので、何卒よろしくお願いたします。詳細は、「投稿に関わる諸規程等一覧」をご覧ください。

[https://jssspe.org/wp-content/uploads/annualreport\\_regulations\\_20230625.pdf](https://jssspe.org/wp-content/uploads/annualreport_regulations_20230625.pdf)

「年報 体育社会学」J-STAGE はこちらからご覧いただけます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/arspes/-char/ja>

### <事務局より>

1. 新事務局体制について：2023年6月25日より新事務局を担当いたします奈良女子大学の石坂です。新学会として初めての事務局となりますので、会計の安定化（経費削減と収入の増加）や規程の整備など、理事会とともに学会の仕組み作りを進めていきたいと思っております。事務局体制は以下の通りです。事務局経験者の強力な先生方にサポートしていただけることとなりました。至らないことも多いと思っておりますが、二年間どうぞよろしくお願いたします。

事務局長：石坂 友司（奈良女子大学）

事務局次長：水上 博司（日本大学）（本部連携）

石澤 伸弘（北海道教育大学）

会計担当：工藤 康宏（武庫川女子大学）

広報担当：常行 泰子（神戸市外国語大学）

2. 会員動向：日本体育社会学会（体育社会学専門領域）の会員数は、2023年8月18日現在354名（名誉会員22名）です。
3. 会員情報変更：日本体育社会学会（本学会）の会員は日本体育・スポーツ・健康学会（本会）体育社会学専門領域の会員を兼ねるため、名簿管理は本会が行っております。勤務先の住所・所属などの変更があった場合は本会のホームページにある「会員マイページ」より変更手続きを行ってください。名簿反映には時間がかかりますので、別途本学会事務局にもメールでご連絡いただくと助かります。
4. ホームページの新設について：新学会創設に合わせてホームページを新設しました。旧専門領域のホームページは近日中に閉鎖いたします。ブックマークの変更をよろしくお願いたします。大会抄録集、会則および諸規程の改訂版、会報などについては、随時ホームページに掲載いたします。

日本体育社会学会ホームページ <https://jssspe.org/>

5. 会員への連絡：会員への連絡は上記ホームページとメールで行います。本会名簿に登録のメールアドレスにてご案内していますが、メールが届かない方が数名おられますので更新をお願いたします。また、メールが届いていない方がおられましたら、事務局までお知らせください。新事務局のメールアドレスは以下の通りです。

事務局メールアドレス [jimukyoku@jssspe.org](mailto:jimukyoku@jssspe.org)

## ○理事会議事録

### 2023年度 日本体育社会学会 第1回理事会 議事録

期日：2023年4月14日（金）18:30～19:30

形式：オンライン

出席：松尾哲矢（会長）、高峰修（理事長）、石澤伸弘（現事務局長）、石坂友司（事務局長）、水上博司（事務局次長）

秋吉遼子、浅沼道成、稲葉慎太郎、大沼義彦、岡安功、甲斐健人、神野賢治、北村尚浩、笹生心太、清水諭、白石翔、高尾将幸、高橋豪仁、千葉直樹、長ヶ原誠、彦次佳、藤井雅人、前田博子、松田恵示、依田充代（以上理事、敬称略、五十音順）

欠席：伊藤克広、中澤篤史、（以上理事、敬称略、五十音順）

司会：高峰理事長

議事録：石坂

#### <審議事項>

##### 1. 委員会委員の確定について

新理事の希望と各委員会運営細則などを元に、理事長より各委員会委員案が提案され承認された。

##### 2. 委員会委員長・副委員長の選任について

各委員会委員の互選によって委員長、副委員長が以下の通り決定された。なお、学会賞選考委員会委員は、日本体育社会学会賞選考規程第4条により、選考委員候補者推薦委員会によって選出されることから、今回は人選を行わないことが確認された。

研究委員会：秋吉、浅沼、大沼、○白石、◎千葉、[石澤]

編集委員会：稲葉、神野、高橋、◎藤井、○前田、千葉（研究委員長）、甲斐（学生研究奨励賞選考委員長）、[石坂（事務局長）]

広報委員会：◎伊藤、岡安、笹生

学生研究奨励賞選考委員会：◎甲斐、高尾、長ヶ原、彦次、○中澤

学会賞選考委員会：(保留)

選考委員候補者推薦委員会：◎松尾（会長）、山口泰雄（現代表）、石坂（事務局長）、監事（2名）、清水、高峰

学会大会委員会：◎依田、[石澤]

テキスト出版：清水、◎松田、北村、松尾、高峰、[石坂]

事務局： 広報：常行泰子会員、会計：工藤康宏会員

敬称略、◎委員長、○副委員長、[ ] は事務局より参加。

なお、本日欠席の委員長、副委員長候補者には後日理事長より意向確認を行うことが確認された（全ての候補者より了承を得た。事務局追記）。

##### 3. 専門委員候補者の選出について

追加の専門委員については委員会で必要に応じて検討し、後日理事長まで届け出ることが確認された。

##### 4. 監事候補者の選出について

役員選出内規第13条により、松尾会長から有山篤利会員（追手門学院大学）、宮本幸子会員（笹川スポーツ財団）が提案された。内諾を得た後、総会で承認がなされることが確認された。

##### 5. 委員会業務の引き継ぎについて

5月末日を目安に前期の委員会との間で業務・課題等の引き継ぎを済ませ、内容をまとめたものを事務局に提

出することが確認された。

## 6. その他

特になし

### <報告事項>

#### 1. 学会本部常設委員会委員

日本体育・スポーツ・健康学会の常設委員会委員として、専門領域から以下の会員が任命されていることが確認された。

運営委員会：工藤保子会員

庶務委員会：◎工藤保子会員、石坂友司会員

学会賞・浅田学術奨励賞選考委員会：齋藤健司会員（◎浅田賞、○学会賞）

選挙管理委員会：◎工藤保子会員

国際誌委員会：◎長ヶ原誠会員

学会大会委員会：◎依田充代会員

広報委員会：依田充代会員

政策検討・諮問委員会：◎水上博司会員

ダイバシティ委員会：◎高峰修会員

◎は委員長

#### 2. 学会本部委員リスト

日本体育・スポーツ・健康学会の委員会委員として、専門領域から以下の会員が任命されていることが確認された。

学会賞選考委員会：吉田毅会員

「体育学研究」編集委員会：高橋義雄会員、谷口勇一会員、北村尚浩会員、  
中澤篤史会員

「IJSHS」編集委員会：伊藤央二会員、山口志郎会員

#### 3. 応用（領域横断）研究部会員

日本体育・スポーツ・健康学会の応用（領域横断）研究部会員として、専門領域から以下の会員が任命されていることが確認された（任期3年）。

スポーツ文化研究部会：山口理恵子会員

学校保健体育研究部会：松田恵示会員

競技スポーツ研究部会：高橋義雄会員

生涯スポーツ研究部会：水上博司会員

健康福祉研究部会：高尾将幸会員

#### 4. その他

①松尾会長より、6月24日（土）に予定されている現評議員会、新理事会については合同開催の可能性もあること、ハイブリッド形式の開催も検討していくことが示された。また、大会時に学部生の発表セクションを設けることから、指導学生・院生に発表を促していくことが確認された。

②石澤現事務局より、日本体育・スポーツ・健康学会の運営は新理事会が対応すること、キーノート、一般発表については例年通りとして準備していくこと、抄録の作成（学生研究奨励賞の選考は6月の学会大会で行う）をどのようにしていくかは今後検討していくことが報告された。

次回理事会：6月24日（土）午前中、立教大学池袋キャンパスにて、対面形式（ハイブリッド形式も検討）。

以上

## 2023年度 日本体育社会学会 第2回理事会 議事録

期日：2023年6月24日（土）11:00～12:00

形式：立教大学池袋キャンパス5号館5125教室／zoom オンライン

出席：松尾哲矢（会長）、高峰修（理事長）

秋吉遼子、浅沼道成、稲葉慎太郎、大沼義彦、岡安功、甲斐健人、神野賢治、  
北村尚浩、笹生心太、清水諭、白石翔、高尾将幸、高橋豪仁、千葉直樹、中澤篤史、  
彦次佳、藤井雅人、前田博子、松田恵示、依田充代（以上理事、敬称略、五十音順）  
前田和司、山本理人（以上評議員、敬称略、五十音順）  
石坂友司（新事務局長）、石澤伸弘（現事務局長／事務局次長）水上博司（事務局次長）、  
工藤康宏（事務局会計担当）

欠席：伊藤克広、長ヶ原誠（以上理事、敬称略、五十音順）

司会：高峰理事長

議事録：石坂

議事に先立ち、松尾会長より挨拶がなされた。

### <報告事項>

#### 1. 評議員会／理事会の引き継ぎ事項について

評議員会各委員会委員長出席のもと、理事会への引き継ぎが行われた。現事務局長より、夏の日本体育・スポーツ・健康学会（以下、本会）での専門領域キーノートレクチャーの概要、一般発表のエントリー状況（11演題）、抄録集の作成を例年通り行うことが報告された。

#### 2. その他

特になし。

### <審議事項>

#### 1. 2023年度活動計画（案）について

資料をもとに新事務局長より説明がなされ、異議なく承認された。

#### 2. 2023年度予算（案）について

資料をもとに新事務局長より説明がなされた。2022年度予算を引き継ぎながらも、新学会設立によって40万円程度の支出超過となっていることについて、今後削減項目を洗い出すとともに、収入の増加を図ること、本会開催時に行われる理事会、総会において補正予算を組んで対応していくことが提案された。2023年度予算案は異議なく承認された。

#### 3. 日本体育社会学会規程の制定について

新事務局長より日本体育社会学会規程の制定について提案があり、異議なく承認された。

#### 4. 日本体育・スポーツ・健康学会のスケジュールについて

理事長より、9月1日に行われる本会学会大会（同志社大学今出川キャンパス）体育社会学専門領域の活動スケジュールについて説明がなされた。現時点で午前に理事会（9時～10時）、総会（時間未定）、午後にキーノートレクチャー（13時～14時）を開催し、一般発表は午前、午後に分けて実施すること、スケジュールについては本会と調整中であることが説明された。なお、資料5は提出されなかった。

#### 5. 学生研究奨励賞の選考及び副賞について

甲斐学生研究奨励賞選考委員会委員長より、第1回学会大会発表抄録集に掲載された学生の論文7編についての選考結果が報告され、異議なく承認された。選考結果は総会で報告され、クロージングで表彰されることが確認された(表彰は総会時に変更、事務局追記)。また、新事務局長より会計の支出削減に関連して、副賞を減額(事務局追記)することが提案された。種々意見交換の後、原案通り承認された。

#### 6. 「テキスト出版プロジェクト」について

松田「テキスト出版プロジェクト」編集委員会委員長より、「テキスト出版プロジェクト」についての概要、編集スケジュールについて説明がなされた。甲斐理事より、学校体育/教科体育という言葉の使い方について質問がなされたが、今後検討されていくことが委員長より説明された。9月の理事会で内容、執筆者の提案を行うこととし、原案通り承認された。

#### 7. 学会印・会長印・大会印の新設について

新事務局長より新学会設立に伴う学会印・会長印・大会印の新設が提案され、異議なく承認された。

#### 8. その他

- ①理事長より、抄録集の公開について、大会前は参加者向けにパスワードが付されるが、大会後に全会員にパスワードなしで公開されることが提案され、異議なく承認された。
- ②大沼理事より、学生研究奨励賞の選考について、現在は共同研究者に指導教員が入ることができるが、公平性を期するために規程を検討する必要があるのではないかという質問がなされた。規定するのは難しいという意見などが出されたが、今後委員会で検討されることが確認された。関連して、奨励賞副賞の減額について、受賞者に説明を行うことが甲斐理事から提案された。

次回理事会：9月1日(金)9時～10時、同志社大学今出川キャンパスにて開催予定。

### <あとがき>

今年度より2年間体育社会学会広報委員会委員長を仰せつかりました兵庫県立大学の伊藤克広と申します。東京女子体育大学の笹生心太先生、広島経済大学の岡安功先生とともに体育社会学会ならびに日本体育・スポーツ・健康学会体育社会学専門領域の情報を会員の皆さまに届けて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

日本体育・スポーツ・健康学会第73回大会開催直前になりましたが、News Letter 2023 Summer Issueをお届けします。今大会は、『『体育とスポーツ』の未来』をテーマに開催されます。新型コロナウイルスのパンデミックも収まり、徐々にコロナ前の様相に戻りつつあります。コロナ禍においては「ニューノーマル」が叫ばれ、日常生活では新たな生活様式が取り入れられました。そのような中、健康や体力に対する意識の向上がみられ、改めて体育・スポーツ・健康の重要性に気づかされました。新型コロナウイルスのパンデミックを経て、体育・スポーツはどのような未来を描いていくのか、日本の礎を築いた歴史ある古都京都で多くのディスカッションがなされることが期待されます。

まだまだ暑い日が続きます。会員の皆さまにおかれましてはくれぐれもご自愛ください。それでは京都でお会いできることを楽しみにしております。

伊藤克広（広報委員会）